

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)－文字学に関する既存術語の再検討」

2023 年度第 2 回研究会

日時：令和 5 年 9 月 30 日（土曜日）午後 13 時 00 分より午後 17 時 00 分

日時：令和 5 年 10 月 1 日（日曜日）午後 10 時 00 分より午後 15 時 00 分

場所：304 マルチメディア室

報告者名（所属）

9 月 30 日

1) 落合淳思（AA 研共同研究員，立命館大学）

「古代中国の族徽」

(Clan emblems in ancient China)

古代中国で使われた族徽（出自を表す記号）は、主に青銅器の銘文において使用され、家紋や紋章に近い役割であった。最も原始的な漢字表現であることが特徴だが、時代として甲骨文字や金文と並行しており、文字によっては必ずしも初形ではない。由来は神聖なものや王朝との関係を示すものなど多様であり、形状も動物形・人工の器具・人の動作の表現など多種がある。

1) 全員

文字研究の術語に関する討議（1）

「族徽」という用語と概念について、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。

10 月 1 日

2) 荒川慎太郎（AA 研所員）

「西夏文字筆画の分類と呼称について」

(On the classification and terms for the strokes of Tangut script)

西夏文字は漢字に倣って創製された文字であるが、漢字にあまり見られない筆画を有する。特徴的な筆画を原文とともに紹介するとともに、筆者による分類と、それらの呼称に関して論じた。荒川 2023 以降の考察の進展、今後の課題についても述べた。

2) 全員

文字研究の術語に関する討議（2）

「筆画」と「その呼称」について、メンバーから各文字の見地からコメントを出してもらい、検討を継続した。

対面形式で実施したものの、諸般の事情により Zoom による参加者もいた。11 月に開催する企画展のため、展示品・製作物に関する相談も行った。展示会イベントの事前実験のため「実際の牛骨に甲骨文字を彫る」という経験も、共同研究員皆で体験することができた。